

今が一年で最も熱中症リスク大

【2023年の熱中症による救急搬送の傾向について】

梅雨明け以降、連日暑い日が続き、熱中症による救急搬送者数が急増しています。

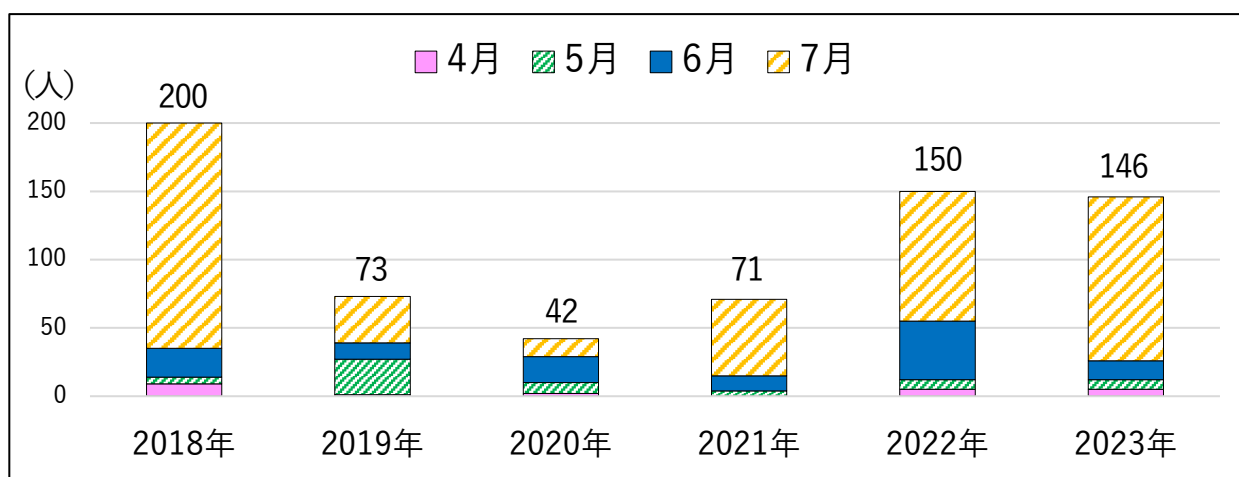
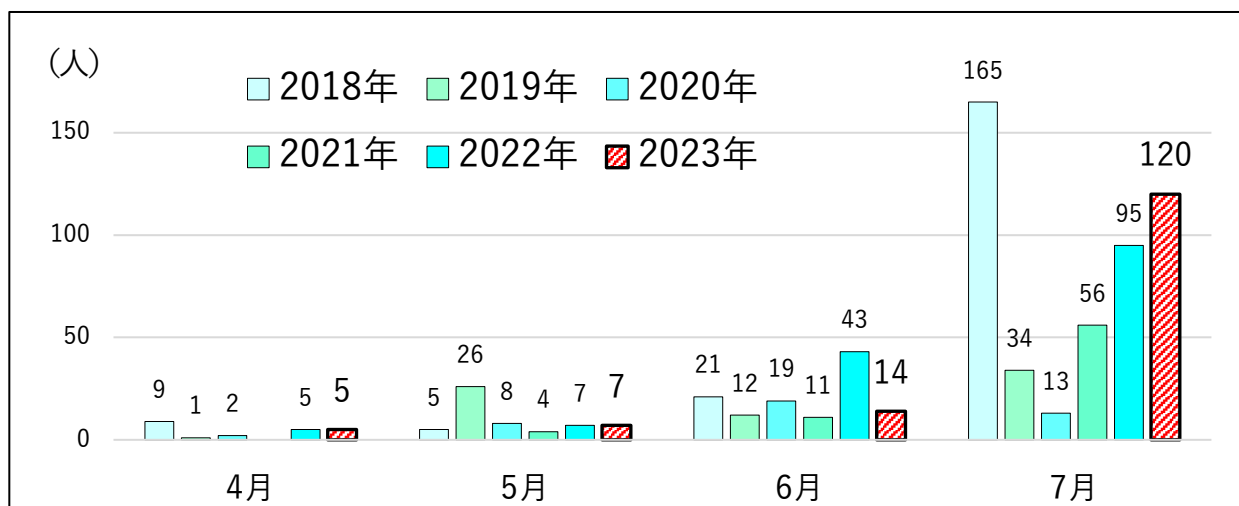
今年の傾向は、6月中旬までは昨年とほぼ同数で推移し、6月中旬から7月中旬までは昨年より少ない状況でしたが、梅雨明けの7月中旬から急増し、7月の合計は昨年から26.3%増加の120人を救急搬送しました。

引き続き暑い日が続き、熱中症に対する厳重な警戒が必要であることから、2023年の熱中症による救急搬送の傾向（7月31日現在）を、以下のとおりまとめましたのでお知らせします。

※ 小数点を含む数値は、少数第二位を四捨五入して表記。

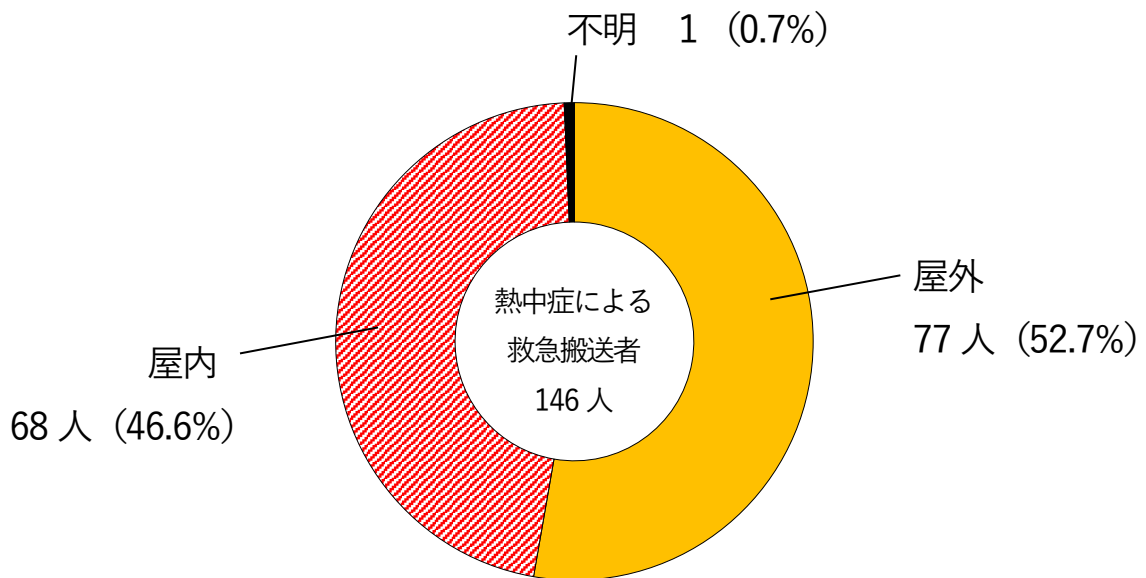
■ 熱中症による救急搬送者数の比較

2023年の熱中症による救急搬送者数をみると、4月から6月は平年並みの人数で推移した一方で、7月は2018年に次ぐ数となりました。2023年の4月から7月までの合計は、昨年とほぼ同数で推移しています。



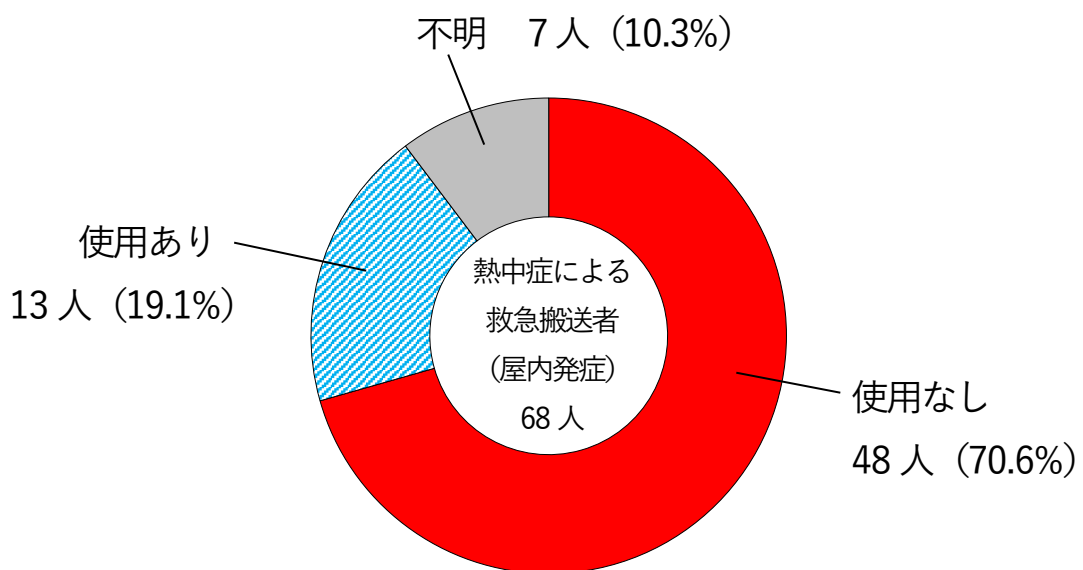
■ 熱中症発症時の屋内外別の搬送者数

2023年の熱中症による救急搬送者を発症時の屋内外別にみると、屋外での発症が77人(52.7%)、屋内での発症が68人(46.6%)となります。



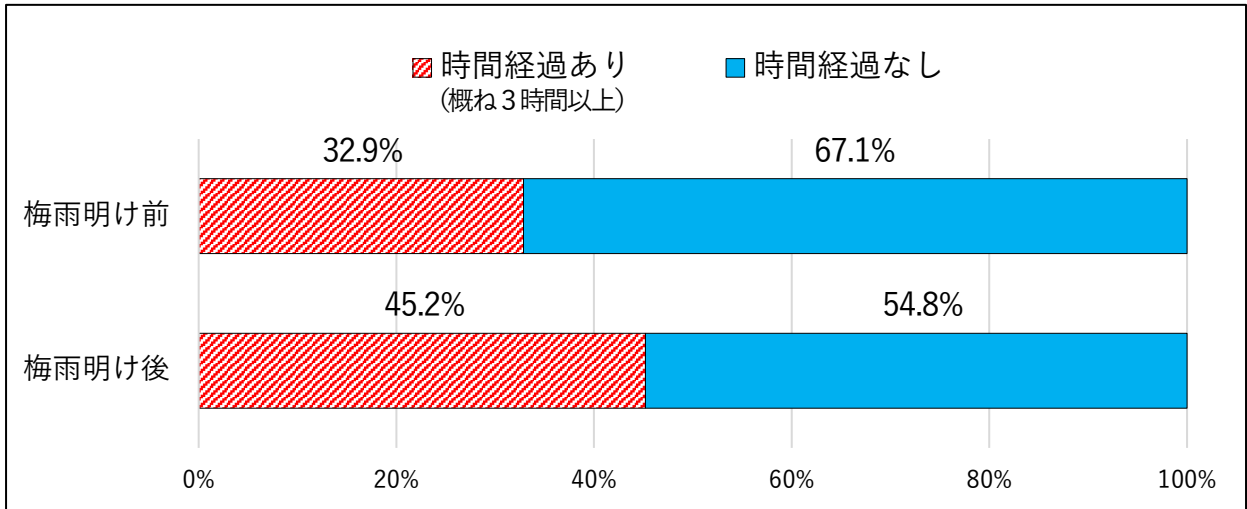
■ 屋内におけるエアコン使用の有無別の搬送者数

2023年の屋内で熱中症を発症し救急搬送された人をエアコン使用の有無別にみると、「使用なし」が48人(70.6%)、「使用あり」が13人(19.1%)、「不明」が7人(10.3%)となります。



■ 熱中症発症から救急要請までの時間経過別の比較

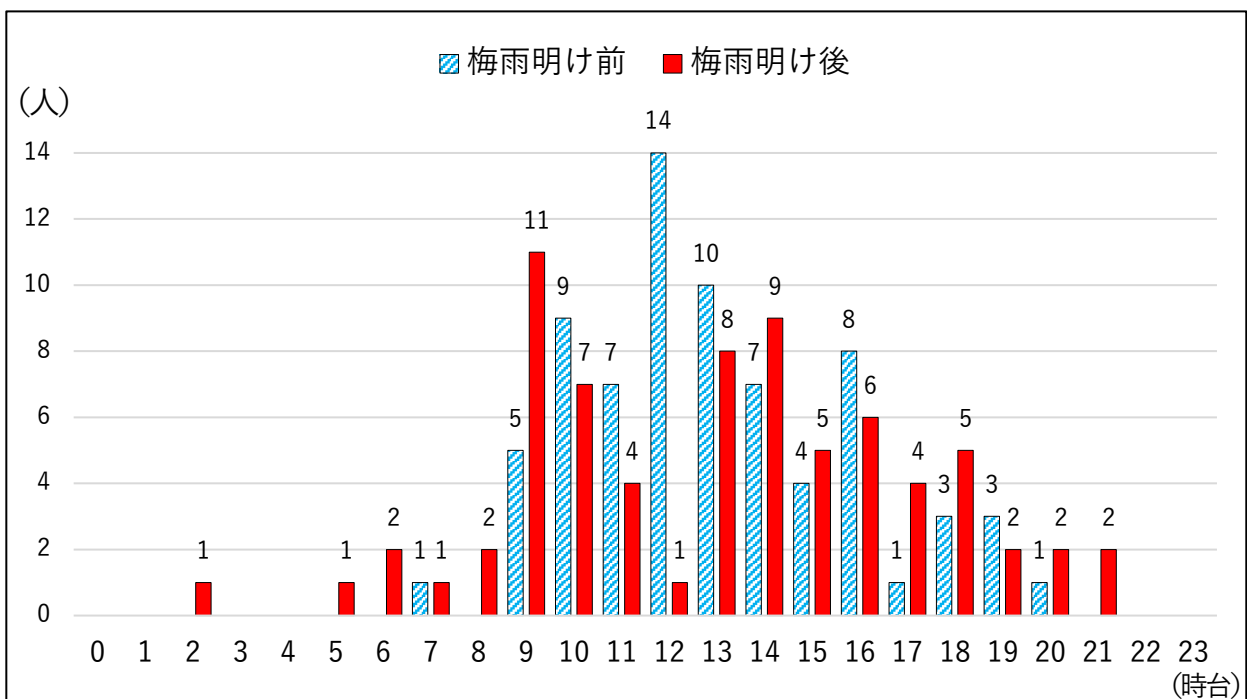
2023年の熱中症を発症したとみられる時間帯から救急要請に至るまでの時間経過を梅雨明け前後で比較すると、梅雨明け後で「時間経過あり」の事案が多くなっていることが分かります。



■ 熱中症による救急要請の時間帯別の比較

2023年の熱中症による救急要請の時間帯を梅雨明け前後で比較すると、「梅雨明け前」は「12時台」が14人で最も多く、次いで「13時台」が10人で続きます。

一方「梅雨明け後」は、「9時台」が11人で最も多く、次いで「14時台」が9人で続き、梅雨明け前後の傾向で違いがあることが分かります。



■ 小学生、中学生、高校生における熱中症による救急搬送者の割合の比較

小学生、中学生、高校生における熱中症による救急搬送者の割合を、2023年と過去5年間(2018年から2022年まで)で比較すると、2023年の特徴として「中学生」の割合が高いことが分かります。

